

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム はなかわ	評価実施年月日	H20年11月25日
評価実施構成員氏名	上木 良子		
記録者氏名	上木 良子	記録年月日	H21年1月4日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開設時から独自の理念を掲げ日々のケアサービスに取り組んでいる。新たに地域密着型サービスを理念に取り入れ日々のケアに取り組んでいる。</p>	○	<p>新たに地域密着型サービスを理念に盛り込み、職員がその主を理解し日々のケアに取り入れている。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>新規職員採用時に理念を伝えるとともに、会議やミーティング時に理念を確認し日々その実践に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域住民や運営推進委員の方及び、家族を招待し利用者と食事会やイベントを行っている。また利用者と地域のレストランとか食堂に出掛けて交流をはかり、利用者がそのような生活になれるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>顔見知りでない方にも必ず声を掛け挨拶をするように話し合っている。近隣所の人も畑で収穫された野菜などを持ってきてくれたりしている。</p>	○	<p>職員が顔見知りでない方にも屋外で当たり前のように声を掛けて挨拶が出来るように取り組んでいる。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭りや活動に協力し参加している。また町内の自治会や行事等にも積極的に参加するようにし、地域住民との交流を心がけている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>日々の状況に応じホームでの暮らしに役立つ事について話し合うが、地域に組み込むまでにはいたっていない。</p>	○	<p>町内とも益々の連携をはかりながら地域の高齢者の暮らしの状況を把握し、職員と役立つことはないか話し合い取り組んでいけるように勤めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	自己評価の意味を全職員が理解し評価を活かした改善について話し合い今後の取り組みに活かしてゆきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見や不満や苦情については投書BOXを設置している。また役所に直接そのような不満を連絡できるように掲示している。その意見を取り入れ出来ることは改善している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2か月に1度ホーム便りを家族に送り利用者の生活の様子や健康状態などを個別に記載し、家族に伝えている。また来訪の折や電話で利用者の日常の様子を伝えたり、本人のほしがる物を購入したりしている。買い物内容を記載し領収書及びレシートとともに毎月、家族に送っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情箱を設置している。投函しづらい場合はリンクルへ苦情申し立て下さる様に記載している。また運営推進会議への家族の参加を呼びかけ、その際に出た意見・要望などを聴き事業所の運営に反映させるように取り組んでいる。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞き改善させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者と職員が3人に1人で維持できるように勤務ローテーションを組んでおり、欠員などで補充が必要な場合は直ちに相談し対処している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が移動しても週に何度か利用者に顔を見せたり声を掛けるなどして安心して頂いている。また全職員が利用者と馴染みの関係を構築しダメージを与えないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	そのレベルに応じた研修を受けさせている。また新規採用職員を対象に実践研修を実施し管理者が指導している。また事例によっては話し合いの場を持ち解決方法へと導いている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者との交流の機会を持つためにも、リンクルや同業者開催の勉強会に出来る限り参加し活動を通じて交流の機会を持つようにしている。	○	同業者と連携を取り、相互訪問や合同研修会等を実施し、互いに更なる質の向上に取り組むまでには至っていない。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場での食事会などでストレスの軽減策を取り入れている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は全てを把握し、職員が利用者の介護支援の時間をより多く出来るように調理・掃除・その他などに気を使い実践している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	話しやすい雰囲気作りをしながら良く聴く機会を作り受け止めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	良く聴く機会を作っている。双方納得がゆくまで話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人と話し合い、本人にどういう介護が必要なのかそこで判断している。他のサービスの利用が希望であれば他のサービスも含めて利用していただいている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に利用者本人・家族にホームを見学して頂き話し合いを重ね、職員とも馴染みの関係を築き無理なく入居となるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の気持ちを尊重しながら、本人が出来ることは出来るだけ見守りながら行って頂いている。また利用者から教えて頂いた事を喜んだり、相談しあったり共に喜び合うなど支え合う関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者・家族・職員とともに食事会を行っている。地域運営推進会議では屈託のない貴重な意見を述べられる関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族を食事会に招待し共に食事をしてもらい利用者と家族の絆を深めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通院の際馴染みの人と会う機会がある。利用者が家族と自宅に遊びに行ったり、以前に行った馴染みのスーパーへ職員と買い物に行ったり、昔、映画で見た灯台も見に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1階2階の利用者同士の交流を深めながら、トランプ・カラオケ・散歩等で関わり合いに努めている。		四季折々の話をしながら散歩をしたり、トランプ・カラオケなどのあとには、そのことについてお茶を飲みながら話したりしながら交流を深める取り組みを心がけている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者にも家族にもいつでも話し合いを持っている。空きがあればいつでも入居出来る体制を整えている。また家族が介護に協力的な理解の持ち主。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中からも利用者の思いや希望の把握に努めている。日常的にディケアを利用する入居者も居るなど本人本位となるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活史等を把握するシートを作成し把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人々の1日の過ごし方・心身状態の変化等を個別に記録し現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成する際は利用者様・家族の意見を聴き、また担当医の意見や職員のきずきやアイデアを取り入れながら介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6か月ごとの見直しを行うとともに利用者様の状態変化に応じて、その都度話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護や介護計画に反映させるため一人々の日々の様子や変化を個別記録に記入。朝・夕の申し送りを行い情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	理美容院への送迎や通院時の付き添いなど、利用者や家族の希望に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要な利用者には地域後見人制度を利用している。またボランティアの方に遊びに来てもらいゲームやなつかしい歌など歌い楽しんでいる。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望によってディケアだとかサービスの体制を築けるようになっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談などしたり、推進会議などで協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に2回かかりつけ医による往診を受けており、利用者の状態についていつでも相談したり診察ができるような体制を築いている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医による週2回の訪問診療を行っている。現状に応じて専門医を紹介してもらい治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	準看を確保している。日常の健康管理や相談を受けながら必要に応じ通院の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関とは早期退院に向けての話し合いを行っているが、本人が改善するまでは医療支援を受けるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化・終末期に向けての指針を定め、入居時に家族に説明し同意書を交わしているが、そのような場合になった時には新たにどのようにするか相談おし、方針を共有しながら対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当医から今後の病状の変化について説明を受けどのような支援を行うかを決定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の居宅へ移り住む際には情報提供書などを作成し情報を提供している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は利用者一人々を尊重しプライバシーに配慮したさりげない介助が行われるように徹底を図っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は利用者それぞれの趣味や個性にあわせ何をしたいのか見極めて、説明したり自分で決定させたり中止させたりして、本人が納得出来るような生活を支えている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員は利用者それぞれとの関わり合いを大切に、一人々の希望を把握し、本人が納得出来るその人らしい生活と成るように支援する。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみには常時気をつけ清潔に心がけている。2カ月に1度訪問美容があるが、利用者が望む店に行けるように努めている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の時間が楽しみとなるように1週間の献立表を見やすい場所に掲示している。また利用者に合わせた食後の後方付け等を職員と一緒にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康や食事の妨げにならないように一人々の状況に合わせている。お酒を希望される方は他の利用者の妨げにならないよう支援している。タバコは健康を守る為全館禁煙にしている。職員は館内禁煙になっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	便チェック表を活用し一人々の排便のパターンを把握している。またオムツの使用や失敗を減らすために時間を決めトイレに誘導し失禁の改善に結び付けている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週4回としているが曜日や時間帯など利用者一人々の希望に合わせて入浴を支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人々の状況に合わせて医師から処方されている眠剤を服用してもらったり、屋外音や室温に配慮しながら安心して休息出来るように夜勤者が常時見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人々の生活歴や力を活かし、食器洗い・編み物・掃除機・鉢植えの水遣り・洗濯物たたみ・畑作業などその人の楽しみを分かち合っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る利用者には一人々の希望や力量に応じ買い物やお金の管理を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	身体状に問題がない限りは希望に沿った散歩・買い物などの外出の支援を行っている。また外気温の低い日はドライブで少し遠出するなど工夫している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	食事会を含めて散策など家族と共に行ったり、個別あるいは他の利用者とドライブを楽しみながら海を見に行ったり神社に御参りに行くなど行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望があればいつでも本人自ら電話をする事が出来る。また手紙のやり取りが出来るように一緒に漢字を調べる等し支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員は湯茶の接待もしているが、自由に飲めるようにポットを設置している。昼食前に来訪の際には昼食を一緒に召し上げて頂くなど、家族が居心地良く過ごせる雰囲気作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員正しく理解している。当ホームでは身体拘束は一切行っていないし、運営者はそういう事に非常に厳しい。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員は居室や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、日中に居室や玄関に鍵を掛けることは一切行っていない。またユニットの入り口に鈴を設置するなどし、開閉を把握しやすいように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全職員がそれぞれの利用者のプライバシーに配慮しながら、所在や様子を必要に応じ連絡し把握している。夜間5回の巡回を実施し昼夜通して安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人々の状態に応じて危険と判断した場合には、協力をしていただける家族には協力して頂きながら危険防止を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は事故防止について話し合い一人々の対応に応じた事故防止に努め嚙下運動や転倒防止の為の体力維持に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時の対応マニュアルをいつでも目に見える場所に置き、消防署職員による救命救急士実施訓練を行う予定。甲種防火管理新期講習を完了し防火管理を強化している。	○	消防職員による救命救急士実施訓練及びAEDを活用した心肺蘇生法の訓練などを実施する予定。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施し消防署から指導を受けている。災害時には火災通報装置により消防署や職員に自動通報が行くようになって居る。また運営推進会議で火災や災害について話し合い、緊急時に地域から協力が得られるよう情報交換をするなどして話しあっている。	○	運営推進会議を通じ話し合い、緊急時に地域からの協力が得られるように連携し合っている。また火災・災害マニュアルにも地域の協力が記載されている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居前に家族に説明し納得していただけるように努めている。入居後も家族同席でケアカンファレンスを行い対応策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	訪問診療と毎日のバイタル及び日頃の利用者とのかかわりの中から変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師から職員は病状と薬の説明を受け服薬の支援・症状の確認に努めている。また医師に服薬後の様子や状態などを報告している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	バランスの取れた食事と水分摂取を促進し、一人々が合った運動を行ったり、便秘エック表で排便状態を把握し便秘の人には下剤を調整している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後には義歯をはずし口腔ケアの支援を行いイソジンでうがいをしている。入れ歯は週2回入れ歯洗浄剤で消毒を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人々の栄養バランスを重視し食事量をグラフに正確に解りやすく記録している。医師の指示どうり必要な水分量をほぼ確保している。また食事には利用者の嗜好を取り入れている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症予防一式を各場所に設置している。マニュアルを作成し職員の実施訓練を行っている。毎日の掃除で感染予防の為消毒液を使い定期的に館内の全消毒を行っている。またインフルエンザの予防接種を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防に布・まな板などは夕食後に消毒し、冷蔵庫は週に1度消毒し衛生を保持している。食材は毎日業者から届き新鮮な食材を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはプランタンに花を植え、正面玄関上には見やすい字でホームの名前を刻んでいる。家庭菜園もあり家庭的な雰囲気作りの工夫に努めている。冬は玄関周りはスタッフが除雪をまんべんにやっている。外回り駐車場は業者に除雪してもらい雪が降ると直ぐにかたづけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間では、日差しはカーテンを利用しCDの音なども不快にならないように注意している。浴室・トイレなどいつもきれいな状態で使用出来るように努めている。また季節ごとに四季を取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間には気の合った利用者同士で過ごせる居場所があり、テラスや事務室に一人で自由に過ごせる場所もある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には使い慣れた馴染みの家具や仏壇・テレビ・冷蔵庫などが持ち込まれ、自分の使いやすい配置にして安心して過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	この経営者が元冷暖房の資材卸業務であり空調には詳しい。全自動で制御している。臭いについては特殊な消臭剤で臭いを消し去っている。臭いの発生源を徹底的に処理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>木造作りで柔らかい弾力性の作りになっている。主な場所には手摺りを設置し、廊下も広く生活しやすいように工夫している。各所に体力にあわせ休憩場所の椅子を用意している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人々が理解出来る範囲内で自分の出来る事を行い、それを失敗しないように見守り、自分で生活が出来るように支援している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りには花を植えたり、室内には運動器具を置いて楽しみながらリハビリをもらっている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>その時や場面によって利用者の意向に変化があるものの、職員は利用者の真意を把握しその人らしい穏やかな生活を送って頂くように努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>自室まで職員が遊びに行き、利用者の話をゆっくり聴いたり、散歩などで季節の移り変わり等を話したり、ゲームや折り紙などを一緒に楽しんでいる。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>自室で過ごしたり、リビングで過ごしたりと1日を居たい場所で過ごしている。また買い物や散歩など出来る限り本人の意思にそっている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>利用者が出来ない部分をお手伝いしたり、同じ作業を手伝ったりしながら支援している。出来ないことが出来ると、生き生きしたとてもいい笑顔が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない</p> <p>希望の場所に行くことが可能であれば行けるように支援している。利用者によって外に出掛けることを拒否されたり、身体状外出が出来ない方もいる。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>月2回の担当医の訪問診療で健康管理をしている。また受診や検査が必要な場合は直ちに協力機関に担当医から連絡が行き、受診及び検査が出来るように成っている。御家族も安心されている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その利用者に合わせた支援を行っている。利用者一人々の状況や要望を考慮し、その利用者に合わせて支援を行っている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>家族の同伴でケアカンファレンスを行い、家族の思いを傾聴したり相談にのったりしている。ホームに遊びに来やすい雰囲気づくりや、推進会議での意見や思いの交流や食事会を行ったりと信頼関係を築いている。(隣へ続く)</p>

一部の家族とはこちらの運営方針を理解できないご家族もあります。

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない	いつ訪ねて来られても良いように、ホーム内・外共、常に来やすい雰囲気と清掃に心掛けている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くない	ホームでの活動や方針を理解して頂き関係者とのつながりや広がりが増え、応援者が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	働く意欲を持ち目標を達成するための意志を持つ職員も居るが、特色やレベルの差がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	生きてきた生活歴や性格・病気から時折によって気持ちの変動や考え方が安定せず、思い通りにならないと満足が出来ないと思うところも感じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	家族は自由な時間に来訪し、利用者の様子や話を聴いたり、ホームの行事に参加したり、推進会議でホームの方針等について触れたり、話し合いの場を作りながら満足されている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 昨年同様に利用者の楽しみや健康維持のために食事の献立や味付けにも色々な味が楽しめるように工夫している。また更に美味しく召し上がって頂く為に温かい料理は温かい物を食べていただき、冷たくして美味しいものは冷たくして食べるように心掛けている。美味しい物を食べれなくなってしまったら潜在意識を改革する事は出来ない。その為にも少しでも美味しい料理を食べて元気に過ごして戴きたいと考えて居ります。衣・住はあるが食事の楽しみ・目的等がある事によって健康で楽しい生活が送れるのではないかと考えて居ります。また職員にいたっては、職員全員が同じ目標を持ち利用者と同じ言葉、同じ目線で接するように取り組み、チームケアを念頭に一人々が責任ある支援に取り組めるように話を聴いたり、助言したりしてレベルアップが出来るよう取り組んで居ります。